

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	NGUYEN THI PHUONG HAO
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) The Role of Community Education in Achieving Education for Sustainable Development(ESD) in Japan.			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授 河西 英通		
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授 溝淵 園子		
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授 友澤 和夫		
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授 中村 平		
審査委員 (Name of the Committee Member)	広島大学平和センター・教授 川野 徳幸		
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、日本におけるESD (持続可能な開発のための教育) 推進のうえで、コミュニティ教育が有する明確な役割を論じたものである。論文は近年の日本社会の変容、とくに少子高齢化、人口減、地域社会の衰退・消失を背景にして、学校教育が危機的状況に直面しているにとらえ、ESDにとってのコミュニティ教育の積極的な意味を明らかにしている。</p> <p>本論文は教育学、文化人類学など複合的アプローチを用い、頻繁な現地調査も踏まえて、以下の六章から構成されている。第一章ではコミュニティ教育の歴史、ESDとの関連、社会教育・国際教育の問題を幅広く検討している。第二章では日本の公民館におけるコミュニティ教育の歴史、近年の日本社会の変容、ESD実践におけるコミュニティ教育の動向を各種のデータをもとに論じている。第三章ではESDの先進地である岡山県岡山市を対象地域にとりあげて、公民館の役割、公民館システムの到達点と課題を明らかにしている。第四章では福島県南相馬市を事例に、2011年3月の東日本大震災後の復旧過程における地域社会の実状、ESDにおけるNPOやボランティアなどの役割を分析し、その到達点と課題を明らかにしている。第五章では広島県東広島市小谷地区をとりあげて、コミュニティの変貌、コミュニティの再生、ESDを支えるコミュニティの到達点と課題を明らかにしている。第六章では三地域の比較検討を行い、岡山市に見られる伝統的あるいは行政主導的なコミュニティ教育をトップダウン型、南相馬市や小谷地区の自主的自立的なコミュニティ教育をボトムアップ型と整理し、地域の実情と住民の意識を基盤にして立ち上げて行く後者のコミュニティ教育に今後の可能性を見い出している。</p> <p>審査会は本論文作成に当って費やされた現地調査・データ収集作業を評価する一方、問題点として、①対象三地域におけるコミュニティ教育の具体性への言及が弱い点、②比較分析方法の検討、精緻な比較分析が必要である点、③コミュニティ教育をトップダウン型とボトムアップ型に分類する図式的理解の問題点、④ユネスコ中心のESD理解からの脱皮などを指摘し、さらなる改善を求めた。</p> <p>本論文はリーディングプログラム機構「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」の研究成果でもあり、分析対象の三地域のみならず、国内外他地域でのフィールドワーク・研究交流を踏まえている。その点で本論文は国際的なESD 研究の一環であり、コミュニティ教育に焦点を絞ることで、国際的な研究動向の最先端をかたちづくる研究となっている。今後著者は本国 (ベトナム) においてESD、コミュニティ教育の研究と実践を進める予定という。本研究のいっそうの進展が期待できる。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (文学) の学位を受ける十分な資格があるものと認める。</p>			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)